

行事予定 (2013年)

- 10月31日(木) 第三回全国幹事会
- 10月31日(木) 第43回日本臨床検査専門
医会総会・講演会
- 12月4日(水) 第三回常任幹事会

巻頭言

日本臨床検査専門医会
全国幹事 村上 純子

臨床検査専門医の *noblesse oblige* [nobles obliʒ]

検体検査管理加算(IV)が平成22年度の診療報酬改訂において新設され、平成24年度の診療報酬改訂を経て、今年で早4年になりました。

患者(入院)1人につき月1回500点を算定できるという、そもそも付与された点数の大きさもさることながら、検体検査管理加算がDPCの機能評価係数に反映されたことで、DPC実施病院の運営/経営に与えたインパクトはかなり大きいものになりました。

「検査医」などというものを見たことがなかった地域の一般病院に、私が勤務し始めて数ヶ月が経った頃、事務長が冗談めかしてこう言ったことがあります。「先生、検体検査管理加算(IV)は麻薬ですね、一度その「気持ち良さ」を知ってしまったら止められない。」質の悪い例えですが、案外、事務方トップの“本音”だったような気がします。検体検査管理加算(IV)を取得することで(それだけで)、月350~450万円の増収を見込んでいるということでした。

DPC実施病院であれば、検体検査管理加算(IV)に関する施設基準を満たすことができるか否かは、実質的には「臨床検査を専ら担当する常勤医を確保できるか否か」という一点にかかっています。施設基準をクリアしさえすれば、臨床検査専門医が、検体検査の質の確保や迅速化に獅子奮迅の活躍をしようが、「名ばかり検査医」が検査室に一步も踏み入れない日々を過ごそうが、同じ「臨床検査を専ら担当する常勤医」です。

であるからこそ、臨床検査専門医である私達は、「検査医の *noblesse oblige*」を意識したいと思うのです。“*noblesse oblige*”…直訳すると「高貴さは(義務を)強制する」という意味ですが、要するに、「社会において一定の地位や特権を付与される者は、それにふさわしい責任と義務とが伴うものだということを自覚し、その上でその責務をどう果たしていくべきかを常に意識して行動しなければならない」ということだと思います。

原則として外来診療をせず、入院患者を受け持つわけでもない検査医が、検査医として期待されるミッションを果たすことなく、単に「存在すること=加算報酬を得ること」だけを目的にしてしまえば、検体検査管理加算そのものの見直し論が出てくることでしょうか。実際、そのような眉をひそめなくなる事例は発生していないのでしょうか。本末転倒も甚だしいですし、いわば「架空請求」です。

日本臨床検査専門医会は、自ら、検体検査管理加算(IV)に相応しい、「臨床検査を専ら担当する常勤医」とはどのような医師なのかを明確化していくと同時に、日本臨床検査医学会に対して、臨床検査専門医の更新審査を厳格化し、誇り高く高潔な専門性を陶冶してゆくように働きかけるべきではないでしょうか。検査医のギルド(職能団体)としての責任を全うするために。

【目次】

- p.1 巻頭言：臨床検査専門医の *noblesse oblige*
- p.2 事務局からのお知らせ、第30回臨床検査専門医認定試験結果、第42回日本臨床検査専門医会総会報告、第3回生涯教育講演会報告、第23回日本臨床検査専門医会春季大会報告、第30回臨床検査振興セミナー報告
- p.3 表：平成24年度会計報告書、第43回日本臨床検査専門医会総会・講演会のお知らせ、共催シンポジウムのお知らせ
- p.4 臨床検査を学ぶ若手医師の集いのお知らせ、「一致団結！臨床検査とチーム医療」に当会を代表して演者参画のお知らせ、平成26年度第24回春季大会のお知らせ、会費納入について、住所変更・所属変更に伴う事務局への通知について、第23回日本臨床検査専門医会春季大会のご報告、『臨床検査振興セミナー』盛会のうちに開催
- p.5 会員の声：ごあいさつ、臨床検査専門医に思うこと：予防医学の立場から
- p.6 編集後記



コスモス

JACLaP NEWS 編集室 増田 亜希子(編集主幹)

〒113-8655 東京都文京区本郷7-3-1 東京大学医学部附属病院 検査部内

TEL: 03-3815-5411 内線 37477/Fax: 03-5800-8806

E-mail: amasuda-ky@umin.ac.jp

【事務局からのお知らせ】

《会員動向》

2013年9月17日現在数744名、専門医575名

《新入会員》（敬称略）

佐野 尚子：鈴鹿中央総合病院 中央検査科

《所属・その他変更》（敬称略）

渡邊眞一郎：旧 公立大学法人 横浜市立大学附属病院
臨床検査部

新 藤沢市民病院 臨床検査科

奈良 誠人：旧 群馬大学大学院医学系研究科 臨床検査医学
新 群馬大学医学部附属病院 感染制御部

丹野 正隆：旧 日本医科大学多摩永山病院 病理部

新 新百合が丘総合病院 病理部

三宅 一徳：旧 順天堂大学医学部 臨床検査医学講座

新 順天堂大学医学部附属浦安病院

臨床検査医学科

杉本 健：旧 神戸大学医学部附属病院 輸血部

新 小野市民病院 血液内科部長

入江 康司：旧 天神会 新古賀病院 病理診断科

新 北九州総合病院 臨床検査部 部長

尾形 享一：旧 東京医科大学 臨床検査医学講座

新 尾形クリニック

只野寿太郎：旧 (財)緒方医学化学研究所

新 柏健診クリニック

《退会会員》（敬称略）

田中 靖人：名古屋市立大学病院 中央臨床検査部

《訃報》

五味 淳 先生：横浜市立大学大学院医学研究科
分子病態免疫病理学部門

2013年6月5日ご逝去

ここからご冥福をお祈り申し上げます。

【第30回臨床検査専門医認定試験結果】

平成25年8月17日(土)、18日(日)に、日本臨床検査医学会主催の第30回臨床検査専門医認定試験が兵庫医科大学で行われ、20名(うち日本臨床検査専門医会会員19名)が合格いたしました。合格おめでとございます。今後のご活躍を期待します。

(50音順/敬称略)

生田 克哉、石垣 知寛、石田 雄介、伊藤 弘康、梅村 啓史、
桂田 由佳、塩沢 英輔、下川 高賢、角野 博之、田中 裕滋、
中村 文彦、信岡 祐彦、橋爪 茜、馬場 尚志、古田 眞智、
松村 敬久、森 大輔、森永 芳智、横崎 典哉、和田 隆志

【第42回日本臨床検査専門医会総会報告】

第23回日本臨床検査専門医会春季大会時に第42回総会が開催されました。

会場：湯本富士屋ホテル

日時：平成25年6月29日(土)12時00分～12時30分

審議事項

第一号議案：平成24年度決算について(別表)

第二号議案：会則改定について

第三号議案：名誉会員・有功会員の推薦について

第四号議案：会長・監事選挙について

第五号議案：平成26年度春季大会大会長に松尾収二先生

(天理医療大学 臨床検査学科)を推薦

第一号から第五号議案はすべて承認されました。

今回承認された名誉会員・有功会員は以下の先生方です。

(50音順/敬称略)

名誉会員：猪川 嗣朗、上田 國寛、上田 尚紀、岡部 紘明、
桑島 実、櫻林郁之介、戸谷 誠之、中島 伸夫、
橋詰 直孝、橋本 琢磨、古田 格、松田 信義、
皆川 彰、吉田 浩
有功会員：青木 紀生、網野 信行、荒木 英爾、伊藤 章、
内村 英正、大川 二郎、置塩 達郎、菊井 正紀、
木下 亀雄、高阪 彰、小島 洋子、小西 奎子、
小林 功、小林 正之、近藤 重信、清水辰一郎、
鈴木 実、高野喜久雄、高原喜八郎、高柳 尹立、
竹中 徹、竹中 道子、田中 俊彦、塚田 裕、
辻 浩一、長野 拓三、中村 良子、那須 勝、
保崎 清人、松山 文夫、水岡 慶二、向島 達、
村上 賢二、村上 俊一、安田 和人、山上 松義、
由谷 親夫、米満 博

報告事項

1. 各委員会ならびにワーキンググループの活動報告
2. 第60回日本臨床検査医学会学術集会共催シンポジウムについて
3. 臨床検査医ネットワークの構築について
4. 第24回春季大会について

【第3回生涯教育講演会報告】

平成25年6月28日(金)、湯本富士屋ホテルにて第3回生涯教育講演会が開催されました。「外部精度管理を検査室運営にどう生かすか」を浜松医科大学臨床検査医学 前川真人先生に、「臨床検査における利益相反—検査室は企業とどのように付き合うべきか—」を順天堂東京江東高齢者医療センター 佐藤尚武先生に御講演いただきました。多くの会員の先生にご参集いただき盛会のうちに終了しました。

【第23回日本臨床検査専門医会春季大会報告】

第23回日本臨床検査専門医会春季大会は、渡邊 卓大会長のもと、平成25年6月28日(金)～29日(土)、湯本富士屋ホテルにて開催されました。プログラムとして専門医の「声」、検査専門医の研究をどう考えるか、臨床検査の専門分野別ネットワーク構築、臨床検査とチーム医療について組まれ、活発な討議が展開されました。多数の参加者があり、盛会のうちに終了しました。

【第30回臨床検査振興セミナー報告】

第30回臨床検査振興セミナーは、平成25年7月19日(金)、東京ガーデンパレスにて開催されました。「新しい抗血栓療法が臨床検査に求めるもの」を山梨大学医学部臨床検査医学教授 尾崎由基男先生に、「日本臨床検査薬協会の透明性ガイドライン及び飲食等に関するプロモーションガイドライン改訂」を日本臨床検査薬協会 流通委員会プロモーション部長、ロシュ・ダイアグノスティックス(株) 堤 和也先生に、「最近気になるウイルス感染症とワクチン開発の最前線」を大阪

		項目	予算額	決算額	予算と決算の差		
収 入	会費	会員会費	7,070,000	5,830,000	-1,240,000		
		賛助会員会費	3,800,000	3,700,000	-100,000		
		小計	10,870,000	9,530,000	-1,340,000		
	その他	広告収入	400,000	320,000	-80,000		
		教育セミナー参加費	600,000	560,000	-40,000		
		生涯教育講演会参加費	100,000	140,000	40,000		
		振興セミナー参加費	100,000	156,000	56,000		
		利息	20,000	3,512	-16,488		
		雑収入	0	11,181	11,181		
		小計	1,220,000	1,190,693	-29,307		
入金合計		12,090,000	10,720,693	-1,369,307			
支 出	庶務経費	事務局雑費	150,000	138,819	11,181		
		通信費(事務局)	170,000	137,556	32,444		
		人件費	1,800,000	1,778,810	21,190		
		FAX使用料	40,000	52,345	-12,345		
		会員登録	10,000	630	9,370		
		事務所維持費	1,570,000	1,593,928	-23,928		
		設備費	150,000	65,730	84,270		
		小計	3,890,000	3,767,818	122,182		
	事業経費	印刷代	2,000,000	1,675,129	324,871		
		通信費	800,000	608,767	191,233		
		春季大会補助金	500,000	500,000	0		
		臨床検査振興セミナー費	850,000	1,053,194	-203,194		
		教育セミナー費	1,150,000	1,075,503	74,497		
		会議費	1,000,000	886,279	113,721		
		交通費	70,000	72,780	-2,780		
		宿泊費	20,000	18,555	1,445		
		原稿料	100,000	60,000	40,000		
		HP維持費	250,000	215,124	34,876		
		JCCLS会費	50,000	50,000	0		
		WASPALM会費	40,000	33,132	6,868		
		臨床検査振興協議会	300,000	300,000	0		
		内保連	100,000	100,000	0		
		予備費	920,000	69,330	850,670		
		小計	8,150,000	6,717,793	1,432,207		
		出金合計		12,040,000	10,485,611	1,554,389	
		収支				235,082	
		前年度繰越金				14,697,976	
		次年度繰越金				14,933,058	

大学名誉教授 上田重晴先生にご講演いただきました。賛助会員、正会員等合わせて約80名の参加者があり、活発な討議が展開されました。

【第43回日本臨床検査専門医会総会・講演会のお知らせ】

第60回日本臨床検査医学会学術集会に合わせ、第43回日本臨床検査専門医会総会・講演会が開催されます。多数の会員の参加をお待ちしています。

開催日時：平成25年10月31日(木)

開催場所：神戸国際会議場 1F メインホール(第1会場)

総会 13時30分～14時10分

講演会 14時10分～15時00分

テーマ：臨床検査医の職能を発揮するために

司会：東條 尚子(東京医科歯科大学医学部

附属病院検査部)

演者：佐守 友博(日本臨床検査専門医会 会長)

【共催シンポジウムのお知らせ】

第60回日本臨床検査医学会学術集会におきまして、当会との共催シンポジウムが開催されます。多数の会員の参加をお待ちしています。

開催日時：平成25年11月2日(土) 14時10分～16時10分
開催場所：神戸国際会議場 4F 401+402(第3会場)

テーマ：医療機関として病院はいかに検査センターとの
互恵関係を育むか

司会：盛田 俊介(東邦大学医療センター大森病院
臨床検査部)

河野 誠司(神戸大学医学部附属病院 検査部)

演者：河野 誠司(神戸大学医学部附属病院 検査部)

小川 眞史(株式会社エスアールエル)

小柴 賢洋(兵庫医科大学 臨床検査医学)

瀬戸山友一(三菱化学メディエンス株式会社)

【臨床検査を学ぶ若手医師の集いのお知らせ】

第 60 回日本臨床検査医学会学術集会におきまして、日本臨床検査医学会 教育委員会主催、日本医師会ならびに当会共催による特別企画として、臨床検査を学ぶ若手医師の集いが開催されます。臨床検査に興味を持っている学生、臨床検査専門医の取得をめざしている医師または取得に興味を持っている医師の参加をお待ちしています。

開催日時：平成 25 年 11 月 2 日(土) 18 時 30 分～20 時 30 分

開催場所：神戸国際会議場 4F 403(第 7 会場) 軽食付き

臨床検査を学ぶ若手医師の集い

司 会：山田 俊幸(自治医科大学 臨床検査医学)

菊池 春人(慶應義塾大学医学部 臨床検査医学)

プログラム

1. 挨拶「臨床検査の分野へようこそ」

村田 満(日本臨床検査医学会 理事長)

佐守 友博(日本臨床検査専門医会 会長)

2. 基調講演「女性臨床検査科長の奮闘記」

小倉加奈子(順天堂大学練馬病院 臨床検査科)

3. 臨床検査専門医のロールモデル紹介

三宅 紀子(日本臨床検査専門医会 専門医数増加

方策検討ワーキンググループ委員長)

4. 若手医師による意見交換

【「一致団結！ 臨床検査とチーム医療」に 当会を代表して演者参画のお知らせ】

第 60 回日本臨床検査医学会学術集会におきまして、日本臨床検査医学会チーム医療 WG による委員会特別企画が開催され、当会を代表して、村上純子先生(埼玉協同病院 臨床検査科)が発表します。多数の会員の参加をお待ちしています。

開催日時：平成 25 年 11 月 2 日(土) 13 時 50 分～16 時 20 分

開催場所：神戸国際会議場 5F 504+505(第 5 会場)

テーマ：一致団結！ 臨床検査とチーム医療

司 会：諏訪部 章(岩手医科大学 臨床検査医学講座)

米山 彰子(虎の門病院 中央検査部)

なお、会員の先生方には、チーム医療に対する姿勢や取り組みに関するアンケートにご協力いただきありがとうございました。

【平成 26 年度第 24 回春季大会のお知らせ】

大会長 清水 力(北海道大学病院検査・輸血部長、准教授)

開催日時：平成 26 年 5 月 30 日(金)、31 日(土)

開催場所：北海道大学医学部学友会館「フラテ」

【会費納入について】

平成 25 年度の会費の納入がまだお済みでない方は振込をお願い致します。尚、平成 25 年度より、満 70 歳以上の正会員の年会費は、5 千円となりました(平成 24 年 11 月 29 日 会則改定)。未納分のある正会員の方々は合計額をお振込ください(納入状況は振込用紙に記載致してあります)。

年会費：1 万円

年会費(平成 25 年 1 月 1 日現在、70 歳以上の方)：5 千円

郵便振り込み口座：00100-3-20509

加入者名：日本臨床検査専門医会事務局

ご自身の振り込み状況が不明な先生は、事務局まで E-mail

または FAX でお問い合わせください。

【住所変更・所属変更に伴う事務局への通知について】

住所・所属の変更にもなつて JACLaP WIRE など電子メールの連絡や定期刊行物が届かなくなる会員がいます。勤務先、住所および E-mail address 等の変更がありましたら必ず事務局までお知らせ下さい。変更事項はホームページから【会員情報変更届】をダウンロードしてそれに記載し、FAX あるいは E-mail で日本臨床検査専門医会事務局宛てにお送りください。

【第 23 回日本臨床検査専門医会春季大会のご報告】

平成 25 年 6 月 28 日(金)・29 日(土)の 2 日間、第 23 回日本臨床検査専門医会春季大会を箱根湯本の富士屋ホテルにおいて無事、開催することができました。全国からご参加いただきました 60 名近い会員の皆様、また専門医会事務局をはじめ本会の開催にご協力をいただきました皆様に心より御礼を申し上げます。

今大会は「会員間の情報交換・意見交換と懇親」の場とすることを目的として、温泉ホテルでの合宿形式といたしました。また、プログラムについても「専門医会」という、学会とはやや性格を異にする本会の特性を考慮して、学術的なテーマのもとに行われるミニ学会・ミニシンポジウムではなく、参加者間の自由で活発なコミュニケーションが可能となるような構成といたしました。会の前半では「専門医の声」と題して、日頃、お話をおうかがいする機会の少ない、特に地方の一線病院で、お一人またはごく限られた人員で奮闘されている臨床検査専門医を中心に、6 名の先生方に自己紹介の他、現場からの問題提起、専門医会への要望・提案など「生の声」をお話いただきました。いずれの先生からも大変貴重な現場の声が届けられ、また、会場からは活発な質問や意見が出されるなど、臨床検査専門医の置かれているさまざまな状況を参加者全員で共有することができたものと考えております。専門医会としては、今後、このような現場の状況にも十分に配慮した運営が必要であるとの思いを強くした次第です。会の後半では、参加者から事前に提案いただいた「検査医のキャリア形成にかかわる“研究業績”について」、「専門医の専門分野別ネットワーク構築について」、「臨床検査とチーム医療について」の 3 つのテーマについて討論を行いました。ディスカッションは昼食をとりながらも続けられるなど、自由な雰囲気のもと、活発な意見交換ができたものと考えております。

今回の試みが、今後の春季大会のあり方を考えるうえでの参考となれば幸いです。

(杏林大学医学部臨床検査医学 渡邊 卓)

【『臨床検査振興セミナー』盛会のうちに開催】

今年で 30 回目を数える臨床検査振興セミナーは、例年通り東京湯島のガーデンパレスで平成 25 年 7 月 19 日に開催されました。猛暑にも関わらず専門医会の会員と賛助会員企業の方々、合わせて約 80 名が参加されました。

はじめに『医師に好かれる MR とは？』との題で、6 月に会員の先生方からお答えいただいた DMR(臨床検査薬情報担当者)の活動に関するアンケート結果を小生が報告させて頂きました。電子メールと専門医会春季大会会場での集計を合わせ、67 名の会員からご回答をいただきました。この場をお借りし

厚く御礼申し上げます。アンケートの集計結果は LabCP 本年 2 号に掲載予定です。メーカー主導のアンケートとは異なる興味深い結果が出ておりますので、ぜひご覧ください。

次いで講演を 3 件。まず小柴賢洋副会長座長のもと、山梨大学医学部臨床検査医学の尾崎由基男教授が『新しい抗血栓療法が臨床検査に求めるもの』をご講演くださいました。新しい抗凝固剤が次々と市場に現れる中、各薬剤が凝固経路のどこに作用するのか平易にご解説のあと、検査部は何をすべきか明快にお示しくくださいました。

次に企業の接待が激減した昨今、その根拠となる『日本臨床検査薬協会の透明性ガイドライン及び飲食等に関するプロモーションガイドライン改訂』について、一般社団法人日本臨床検査薬協会流通委員会プロモーション部会長の堤和也先生にご解説いただきました。具体的な金額まで詳細に入ったお話で、ご参加いただけなかった方には残念としか申し上げられないレアな情報でした。

最後に佐守友博会長の司会で、大阪大学の土田重晴名誉教授から『最近気になるウイルス感染症とワクチン開発の最前線』のご講演をいただきました。1960 年代に存在した吸入ワクチンの貴重な写真など、長年ワクチン開発に生涯携わって来られた土田先生ならではの興味深い講演でした。

「振興セミナー」は賛助会員企業の方々に、学術情報を提供するため毎年開催されています。四半世紀を過ぎ、臨床検査に関連した 5 団体(日本臨床検査医学会、臨床検査薬協会、衛生検査所協会、臨床衛生検査技師会と臨床検査専門医会)のコラボレーションを確認するような会となりつつあります。来年も 7 月中頃に同じ場所で開催されますので、ぜひ会員の先生もご参加ください。

(副会長・渉外広報委員長 昭和大学横浜市北部病院 木村 聡)

【会員の声】

ごあいさつ

みなさま、はじめまして。広島大学病院検査部の横崎と申します。私は本年度から臨床検査専門医会に加わらせていただきましたが、現段階では私は「臨床検査管理医」です。7 月に執筆依頼を頂きましたが、「実は専門医試験を 8 月に控えておりますので、執筆はその後にさせて頂けませんか？」とお答えしておりました。その試験が昨日終わり、「悄然としている」のですが、お約束しましたのでキーボードに向かっております。

私は 2009 年に、10 年以上にわたり在籍した広島大学病院総合診療科から検査部に移り、翌 2010 年より部長を拝命しております。「自意識過剰」と評されるかもしれませんが、当院検査部については、ある意味ネガティブな方向で注目されているのではと感じております。そして、こんなにも早期に執筆依頼を頂いたのも、我々への期待とともに、経緯や現状をお知りになりたいのかなとも感じています。

広島大学病院の検査部は 1965 年に医学部附属病院の中央診療施設として発足し、坪倉篤雄先生が長く部長をされ、1985 年には臨床検査医学講座が開設されました。その後神辺眞之教授に引き継がれました。2006 年に神辺教授が退官された後、大島哲也准教授が 3 年間牽引してこられました。2009 年 3 月一身上の都合で退職されました。この間、2008 年に臨床検査医学講座は循環器内科講座に振りかえられました。ここに至るについては、独立行政法人化による経営改善

という大目標と、診療支援部への再編成という二つの要因があったと考えますが、私には詳細不明です。当事者にはそれぞれの思いや意見はいろいろあったと思いますが、私はわからしか聞いておりませんし、いずれも断片的・片務的な情報ですので、これについて多くを記すことは不適切と考えますので、ご容赦いただきたいと存じます。

しかしここに、広島大学病院には臨床検査専門医はおろか臨床検査を生業とする医師が一人もいなくなるという状況が発生してしまうところでした。当時の板羽秀之技師長は、この状況を大変憂えておられました。私は院内感染対策を通じて板羽技師長とは懇意にしており、その窮状もある程度は聞きしておりました。ここで板羽技師長は一計を案じ、当時注目されていた検体管理加算(IV)を(もちろん、現場の意見をいろいろな所へ伝えて欲しいというお気持ちも十分あったと理解していますが、現実的な問題解決の方法として)引き合いに出し、臨床検査適正化委員会の委員長に働きかけ、結果、大島先生がお辞めになるぎりぎりの 3 月下旬に病院長より私に下命があったというのが、私が検査部に移動した検査部側からの経緯です。

さて移動後ですが、部内事情は、これもまた詳しいことは不適切と思いますので一言だけ申し上げますと、人心の荒れ方は私の想像以上でした。私自身、このままでは心許ないと思いましたので、移動後すぐに臨床検査医学会に入会し、入会後 2 年を待って管理医の資格をとりました。一方、板羽技師長は広島国際大学に栄転されました。これにより広島大学病院では臨床検査技師における「技師長」という職階がなくなりました。それから 2 年経ちます。残念ながらもまだまだ落ち着いて前へ進む状況とは言い難いのですが、収益の面では、検体管理加算(IV)のおかげで、検査部単体としてわずかですが黒字を残すことができています。ですが、この黒字も、検体管理加算がなければ赤字に転落する程度です。外部精度管理の成績は、もう少し頑張らないといけません。一方で、臨床検査技師の皆さんと協力して、疫学倫理審査を受けるような研究もいくつか進めております。まだまだ皆様に肩を並べることができるようになるまでには時間がかかると思いますが、地道に努力していきたいと思っております。

以上、乱筆乱文、ご容赦ください。なんとか 8 月 19 日中に書き上げることができました。

(広島大学病院検査部 横崎 典哉)

臨床検査専門医に思うこと：予防医学の立場から

臨床検査専門医となられた先生方は、検査部所属の先生方や、検査部長を兼任されて臨床検査の管理運営に関わられている先生方が多いと思います。かつては私も大学の臨床血液検査室で、技師とともに、血液疾患の診断や治療効果の判定に必要なさまざまな検査を行い、臨床医をサポートすることに日々尽力してきました。

約 4 年前に市中病院の常勤医となってからは、主に健診センターで、人間ドックや定期健診業務などに関わっています。治療医学に対して、健診は予防医学の分野であり、自覚症状がないうちに検査値の異常に対応して、将来発症する可能性のある疾患を予防しようという考えです。これが国民医療費削減にもつながると期待されており、近年、わが国では健診が重視されてきています。それまで予防医学の分野にまったく関わりのなかった私にとって、はじめはメタボリックシンドローム

ドロームって???という印象でしたが、実は大変奥が深く重要な分野であるということを最近感じています。生活習慣病とは?先生方をご存知でしょうか。食生活の乱れや過度の飲酒、運動不足、日々のストレスや喫煙など、普段の生活習慣がその発症や進行に深く関わっている疾患群の総称で、心臓病、脳卒中、糖尿病、高血圧、肥満、脂質異常症などを指します。予防医学の分野は、臨床検査と密接に関係しています。日本人の三大死因は、がん(悪性新生物)、心臓病(心疾患)、脳卒中(脳血管疾患)で死因の約6割を占めておりますが、とくに心臓病や脳卒中は、高血圧のほか糖代謝・脂質異常症などの臨床検査値の異常を早期にみつけ、生活習慣の改善や内服治療を開始するなど、適切な対応をとることで予防することができます。

2008年4月からは特定健診制度・特定保健指導もスタートし、メタボリックシンドロームの定義がマスコミなどを介して巷に広く浸透するにつれ、人々の関心は疾患の発症予防へと徐々に向いてきています。

加えて、臨床検査はここ数十年の間に著しく進歩し、とくに遺伝子解析技術を用いた遺伝子関連検査の発展は目覚ましいものがあります。日常診療においても遺伝子関連検査の役割は増し、この流れの中で多くの医療機関に遺伝子診療部が設置されてきています。

米国の人気女優が、乳がんのリスクを高める遺伝子に病的変異が見つかったため、予防措置として両側乳房を切除する手術を受けたというニュースが、5月に報道されました。この予防的乳房切除術により、発がんリスクが87%から5%未満に低下したと医師から説明を受けたそうです。この医療行為の賛否は別として、将来起こりうるさまざまな疾患の発症リスクを本人自らが遺伝学的検査を受けることによって知り、発症前に予防的な医療を受けることが選択肢の一つとしてあたり前のように選べる時代は、そう遠くはないのかもしれませんが、<“テーラーメイドの人間ドック健診”の確立をめざして>というシンポジウムが2012年の第52回日本人間ドック学会学術大会で行われています。たとえば医療機関の遺伝子検査室と連携し、人間ドックのオプション項目として希望する遺伝学的検査を簡単に受けられるようになることも、、、将来あるかもしれません。

病気の診断、治療のみならず、疾患予防のために個人の遺伝情報を活用することは、オーダーメイド医療のめざす一つの方向性かもしれませんが、それが実現するまでには精度管理や検査結果の管理、臨床的有用性の確立や遺伝カウンセリングに関わる問題など、さまざまな課題があります。遺伝学

的検査のような社会的な影響が大きい検査への期待が今後ますます高まっていく可能性があり、検査専門医が予防医学の分野でも活躍する場が広がっていくかもしれません。チーム医療の一員として検査を専門とする臨床検査専門医の果たす役割は、今後ますます大きくなっていくものと思われます。

(小平記念東京日立病院内科、健診センター 小池 由佳子)

【編集後記】

日増しに秋の深まりを感じる頃となりました。9月上旬には2020年のオリンピックが東京で開催されることが決定し、日本中が盛り上がりました。身近なところでオリンピックが開催されることをうれしく思う一方、被災地の復興など様々な問題点を解決する必要があると、改めて感じました。

今号では、巻頭言を全国幹事の村上純子先生にお願いし、検体検査管理加算(IV)にふさわしい臨床検査専門医(会)のあり方についてご寄稿いただきました。また、春季大会の総括を大会長の渡邊卓先生に、臨床検査振興セミナーの総括を副会長の木村聡先生にご寄稿いただきました。開催内容についてわかりやすくおまとめいただき、ありがとうございます。「会員の声」には2名の先生からご寄稿いただいております。横崎典哉先生からは臨床検査管理医としてのご勤務の現状について、小池由佳子先生からは予防医学における臨床検査の重要性についてご寄稿いただきました。ご寄稿いただいた先生方に、心より厚く御礼を申し上げます。「会員の声」は、様々な立場で勤務されている臨床検査医の先生方のご意見を伺うことのできる、貴重な場であると改めて感じております。広く会員の皆様からのご寄稿をお待ち申し上げます。

今号では、臨床検査専門医試験の合格者の先生方のお名前を掲載しております。合格された先生方、おめでとうございます。皆様と是非一緒に、臨床検査の分野を盛り上げていければと思います。どうぞよろしく願いいたします。…このようなことを書いてしまいましたが、実は私は、まだまだ駆け出しの臨床検査専門医です。試験が大変だったことを、昨日のこのように思い出します。試験勉強は大変でしたが、各分野の専門家の先生方・技師の方々のご協力のもと、なんとかこなすことができました。JACLaP NEWSに掲載されていた受験体験談も、とても参考になりました。合格者の先生方におかれましては、受験体験談をご寄稿いただけますとありがたく存じます。よろしくお願い申し上げます。

(編集主幹 東京大学医学部附属病院検査部 増田 亜希子)

日本臨床検査専門医会

会 長：佐守友博、副会長：小柴賢洋、木村 聡

常任幹事：

池田 均(情報・出版委員会委員長)、菊池春人(教育研修委員会委員長)、佐藤尚武(保険点数委員会委員長)、下 正宗、高木 康、

東條尚子(庶務・会計幹事)、米山彰子、渡邊 卓(資格審査・会則改訂委員会委員長)

全国幹事：安東由喜雄、大谷慎一、尾崎由基男、河野誠司、北島 勲、幸村 近、佐藤麻子、清水 力、末広 寛、杉浦哲朗、

諏訪部章、田窪孝行、藤原久美、船渡忠男、松尾収二、松永 彰、三井田孝、宮地勇人、村上純子、盛田俊介

監 事：高橋伯夫、土屋達行

情報・出版委員会：

委員長：池田 均

委 員：安東由喜雄、海渡 健、清水 力、増田亜希子、宮地勇人、盛田俊介

日本臨床検査専門医会事務局

〒101-0027 東京都千代田区神田平河町1番地 第3東ビル908号

TEL・FAX:03-3864-0804 E-mail:senmon-i@jacp.org